

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 )

事業者名	有限会社ライジング グループホームいこい	評価実施年月日	平成19年8月1日
評価実施構成員氏名	施設長 : 三木 泉子 管理 者 : 伊成 洋子 計画作成担当者 : 伊成 洋子 介護主任 : 矢野 真弓  (北側ユニット)		
記録者氏名	山腰 剛	記録年月日	平成19年8月6日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>出来るだけ地域の方がその人らしく暮らしていけるようなサービスを行っている。 また、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を形式的な物にしないで日々の生活に生かしている。</p>	○	<p>それぞれの入居者のケアプランに取り入れ日々取り組んでいる。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関やリビングにはどなたにも分かりやすい言葉で理念を掲げ、温かい気持ちになっていただけるような工夫をしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>隣近所の人々とのつきあいを大事にしている。 気軽に立ち寄っていただいたり、お裾分けをしていただいたり良い関係となっている。</p>	○	<p>地域の方がホーム内の草刈りをしに来てくれたり花を植えに来てたりと良い関係となっている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ホームは住宅地より離れた場所にあるため買い物や図書館などに積極的に外出し、地元の人との交流、町内会活動などに積極的に参加し交流を図るよう努めている。</p>	○	<p>町内会に加盟し催し物や神社の草刈り、お祭り、慰問などに参加している。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の高齢者の状況は把握していないが気軽にお茶を飲みに来ていただいたり、快く相談に乗ったりしている。</p>	○	<p>地域の高齢者の暮らしぶりを把握し、当ホームが役に立てることがないか検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者はじめ、全スタッフは自己評価及び外部評価の意義を理解し、改善に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>全スタッフが自己評価作成に携わり、改善できる点は改善するよう努めている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議を二回実施している。今のところホーム側の取り組み、サービス内容の報告が主な物となっている。</p>	<p>○</p> <p>会議が現状報告に終始しないように進行に気を配り、参加者の意見をサービス向上に生かしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者に質問したり相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>市の担当者は運営推進会議に出席していただいている。今後はホームの行事などにも参加していただき話しやすい環境を作っていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は講習を受け全てのスタッフに内容を伝えている。</p>	<p>○</p> <p>他のスタッフも学ぶ機会があれば講習を受けさせたい。必要な方にはこのサービスを活用していただけるように支援したい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者は講習を受け全てのスタッフに内容を伝え、虐待のない運営を行っている。</p>	<p>○</p> <p>職場内にて虐待についての勉強会を行っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解約に関しては入居時に書面及び口頭で十分な説明を行い家族、入居される方の理解、了承を得ている。</p>	<p>○</p> <p>退去される方の退去先を検討し、家族が安心されるよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が意見などを言いやすい雰囲気を作るよう心がけており、入居者の意見はスタッフ間で共有し運営に反映させている。	○	全てのスタッフが入居者とのコミュニケーションをとり、スタッフ同士で意見を交換できる関係を作り上げていく努力をしている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月一回、家族にホーム便りを送付し暮らしぶりを伝えている。 健康状態、金銭管理などは家族がホームに来られた時や電話で定期的に報告している。 職員の移動に関しては特に報告は行っていない。	○	今後、職員の移動についても報告を行っていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を行い要望などを聞く機会を作っている。 入居者に関しては、担当するスタッフが家族から細かい生活援助に関する方針を聞いている。 また、玄関に苦情、不満、要望などを記入して入れるボックスを設置してある。	○	全てのスタッフが家族とコミュニケーションをとれるように努力している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議を月に一度行い意見の交換をし、気にかかることはその都度提案し運営に反映している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状態、状況に合わせて勤務の調整を行っている。	○	急な受診、その他の用事にあわせた勤務調整を行っている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設当時からスタッフの入れ替えはあまりないが、何名かは入れ替わっている。 新しく入社するスタッフに関しては、本格的な勤務に就く数日前から入居者と顔なじみの関係になれるような時間を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者は管理者、職員に研修を受けられる機会を設けている。段階に応じて職員に指導も行っている。</p>	<p>○</p> <p>今年度より当ホームの地域にグループホーム協議会が出来たので、研修を受ける機会が以前より増えた。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の同業者との交流機会をもうけ、相互訪問を行っている。二ヶ月に一度、同業者との勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者はストレスを軽減するための発散方法の指導を行っている。また、職員が孤立しない、させないを合い言葉に全員が相談できる雰囲気を作るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>ベンソン法を取り入れている。一人一人の心を大切にしていきたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し向上心を持って働きやすいように配慮している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居に至るまでや、入居初期には本人の困っていることや不安に思っていることを良く聴き、信頼関係を築くように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族とは入居前の相談や入居初期の不安なことなどを聞く機会を作り、信頼関係を築くように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたら必要としている支援を迅速に行い、入居者の状態の変化にあわせ家族と相談して対応するように努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居した日には特にその方との関わる時間を多く持ちホームの雰囲気に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来ること、楽しいことを一生懸命探し、無理強ひさせず自立と楽しみを常に見つけている。 食事作りの場面などではスタッフと入居者が共に作業し、スタッフが入居者から調理方法などを学んだりしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	いつでもホームに来られる雰囲気を作り、本人の近況を報告し何でも話しやすい状況を作るよう心がけ、共に入居者本人を支えていく関係を築けるよう努力している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者の担当スタッフを決めたことにより、入居者本人のことをより細かく理解することが出来た。知り得たことはスタッフ内で共有し理解に努め、よりよい関係が保たれるように努力している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの家を訪問したり、本人の希望で自分の住んでた家を訪ねることを実施している。	○	友人宅や本人の家に気軽に行き来できることで生活の張りが出来、また、安心することも出来る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士が良い関係になっている場面にはスタッフは立ち入らず、一人になりたい時にはそっとし、一人孤立しそうな状況の時にはスタッフが入居者同士の間にはいり孤立しないよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院のため退去されても、入院先に向く事を心がけ励ましている。 ホーム以外で家族と会った時は本人の近況を聞くなどして大切にお付き合いさせている。	○	なんらかの理由で契約が終了した場合でも、その場で再度申し込みし直す家族もいる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の暮らし方の希望を把握し本人の望むプラン作りに努めている。	○	センター方式を取り入れ、今までの暮らし方などを見直し入居者の望むプランを作成している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活歴や生活環境、利用されてたサービスを把握し、その人らしい馴染みの暮らしを継続できるよう努めている。	○	一人一人の生活歴などをこれまで以上に把握しサービス向上に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	出来ること、出来ないことを把握し無理のない生活が送れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成にあたって、関係者の意見やアイデアを反映させるように努めている。	○	入居者本意の介護計画を作り、より一層サービスの向上を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは現状に即した新たな計画を作成し、その都度関係者と話し合いを持ち作成している。	○	状況の変化があればその都度見直しを行っているが、全ての入居者のプランが現状に即した物とはいえない。状況の変化した入居者に関しては早い段階でのプランの見直しが必要。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別記録に情報や実践内容を記録し、介護計画見直し時に生かしている。	○	記録の取り方がまだ十分ではない。日々の気づきなどももう少し詳しく記入するようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所としてはグループホームのみの運営を行っている。今のところ他の利用方法の計画はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要時にはボランティア、警察、消防などの協力を得て支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス活用はしていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが今年度より始動し、今後協働していく予定。	○	運営推進会議に参加していただいている。今後必要性に応じて活用していく予定。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者をよく知るかかりつけ医師の確保が出来ている。 また、訪問看護ステーションと契約し、その看護師との連携もとれている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師が地域にいて、気軽に相談したり治療を受けられるような体制が整っている		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当ホームは准看護師二名が勤めている。 その他に地域の訪問看護ステーションと契約し健康管理をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が疾病で入院した場合、早期退院に向け病院関係者と情報交換を行いようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方についてはそれぞれの入居者の家族には聞き取りをしているが、まだ方針は出していない。	○	今後繰り返し話し合いを行い方針を共有するようにしたい。 かかりつけ医師との話し合いも今後検討する。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホーム側では医療行為の出来る範囲が限られている。入居者やその家族が希望された場合、医療者側の協力体制にもよるが終末期に向けた支援を行っていききたい。	○	かかりつけ医師と共に支援を行えるよう職員のスキルアップを図る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えの時は家族や関係者と十分情報交換を行い住み替え後のダメージを出来るだけ防ぐように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者にあわせた言葉遣いをし、記録などはファイルにて保管している。	○	徹底した個人情報の取り扱いをしている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	出来るだけ本人の希望、自己決定が出来るような支援を行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切に日々を過ごしていただくが、職員側の都合を優先してしまう場合がある。	○	入居者の意見を日々の暮らしに反映できるようにする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	認知症が進行しても身だしなみ、オシャレを忘れないよう毎朝身なりを整え、出来ない人にはお手伝いしている。 本人の行きつけの理美容院でおしゃれを楽しんでいる。	○	今以上にその人らしいおしゃれをしていただけるように努めたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	個人個人の力量にあわせ、スタッフと共に食事作りや準備、片付けを行っている。	○	入居者がもう少し献立作りに参加していただけるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	その人の状態にあわせ楽しみとして提供している。	○	現状ではタバコを楽しまれる方はいないが、希望があれば危険がないよう十分検討して実施したい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄誘導や失禁の対応はプライドを傷つけないようにさり気なく行い、入居者一人一人の排泄パターン、状態の変化を把握しオムツを出来る限り使用しない方法を取り、全ての入居者がトイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	気乗りしない時には時間をおき声をかけている。 また、入浴の時間帯、長さ、回数はそれぞれの希望に合わせて毎日でも入浴できる体制をとっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	疲労の程度に応じて一人一人が個別に休められるように心がけている。 また、ほとんどの人が安眠されているが時に不眠を訴える人には温かい飲み物を飲んでいただくなどの配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の役割や楽しみ事があり、その中で短時間でも充実した時間がもてるように支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る方には手元に持っていていただき、管理は出来ないがお金を使うことを楽しみにしている方はホーム側で預かっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物は入居者と出かけるようにしている。それ以外の場合でも本人が希望すれば散歩やドライブなど、外出できる機会をもうけている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人の希望に添って出来るだけ一緒に出かけるようにしている。また、家族と共に外出される方もいる。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話は置いていないが、希望があればいつでも自由に電話をかけることが出来る。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人はいつでも遊びに来やすく、また来られた際には御茶でもてなすなどして居心地よく過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はいついかなる時にもしてはいけないこと、例外として身体に危険を及ぼす時のみ家族の同意を得て短時間にすることを全職員は理解し実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に施錠しておらず家族の方や入居者が自由に出入りできるようにしている。入居者が外出する場合は家族かスタッフが一緒に行くようにしている。	○	夜間は安全のため施錠している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の安全のためスタッフは常に見守りをするようにしているが、目の届かないところもあり転倒してしまうこともある。	○	入居者の一日の生活を把握することで急変に対応できるようにする。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者と相談し身体能力や認知度を見極め本人が管理出来る場合は本人で管理し、そうでない場合はホーム側で預かり危険を防ぐ取り組みを行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険性のある入居者にはスタッフが近くで常に見守りを行っている。誤薬に関しては、名前を必ずスタッフが確認し本人にも確認してもらっている。外出時には出来るだけスタッフが付き添うようにしている。		
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	過去に二回、初期対応の訓練を消防立ち会いで行っている。	○	今後、さらに訓練を行う予定である。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回、火災訓練を職員全員で実施し迅速に避難誘導できるようにしている。また、町内会、近所の方に緊急時に助けていただくようお願いしている。	○	対策マニュアルをいつでも見られる場所に設置し、日頃から緊急事態に備えている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	今現在起こりえるリスクの可能性を考え、少しでも減らせるように職員が話し合い、それを家族や入居者に伝え相談していき、暮らしやすい環境作りを行っている。	○	入居者の状況、状態を常に把握することでリスク回避をはかっている。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の顔色や行動をよく観察し、また訴えにも耳を傾け体調の変化や異変の早期発見に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の変更時には職員全員に分かる方法を取り、副作用や用法などを理解するようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事や水分、運動、食後の排便誘導で自然排便を促す工夫をしているが、下剤や浣腸を使用することもある。 便秘気味の入居者には冷たい水を毎朝飲んでいただく支援をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ほとんどの入居者は自分で食後の口腔ケアを行っているが、介助や最終チェックが必要な方にはその都度支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者それぞれの摂取制限を把握し、摂取状況、水分量のチェックを行っている。また、一日全体を通してのカロリー量の算出も行っている。	○	カロリー計算は月初めに行っている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作り、見やすいところに掲げている。 インフルエンザの流行期間には早期に入居者及び職員が予防接種を受け、家族が来られた際には手の消毒、また風邪を引いている場合はマスクをしてもらっている。 ノロウイルス対策としては塩素系消毒液にて毎日掃除、除菌を行っている。	○	年間を通してノロウイルス(及び食中毒)対策として塩素系の消毒液を用いて掃除をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	その日のメニューの食材を使い切るように努め、調理用具等は毎日漂白除菌を行い衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りはお客様をもてなす場所でもあるので明るく誰でも入りやすい空間にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は特に暗くならないように光を取り入れ、花を飾るなど居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にはソファを含め素材、座り心地の異なるイスが多く置かれており好きな場所に座れるようにしている。その時々で入居者がくつろいだり、気のあった人同士でお喋りをするなど思い思いに過ごせるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には本人の使い慣れた家具を用意していただき居心地良く過ごせる環境を作るようにしている。また入居後に必要となった物は新たに持ってきていただくか、本人や家族と相談して買い足していくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室に空気清浄機を設置し、空気のおよみやにおいの対策をしている。 夏期には窓を開放し自然の風を取り入れ、冬期には暖房調節を適切に行っている。	○	消臭スプレーなども使用している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険な物を歩行場所に置かないようにしている。 物につかまって歩いた方がよい入居者には身体機能にあわせた工夫をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱している方の対応としては話を受け止め安心して暮らしていけるようなケアを行っている。 その他にトイレや自分の部屋の入り口に分かりやすく目印をつけ、またタンスの引出などにも分かりやすい様に中の物の名前を書くなどの対応をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周囲や玄関フード内で草花を育てており、花好きの入居者達が自分たちで世話をしたり、居室の窓からも見て楽しめるようにしている。 また、畑では野菜なども作っており外に行って世話が出来ない入居者も収穫した野菜を食卓に並べ味わうことにより喜びを共有できるようにしている。		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>✓ ② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>✓ ② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>✓ ② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>✓ ② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている  <input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている            ③あまり増えていない            ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が            ②職員の2/3くらいが            ③職員の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が            ②利用者の2/3くらいが            ③利用者の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が            ②家族等の2/3くらいが            ③家族等の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・全てのスタッフが仲良く、スタッフの中で悩みがあれば誰かに相談が出来、陰口のない職場となっている。
- ・このような環境の中で入居者に対してもいかに居心地良く生活していただけるか日々のケアをする上で全スタッフが一丸となって取り組んでいる。